

産地パワーアップ事業
都道府県事業評価参考様式

○ 産地パワーアップ計画

都道府県名 長崎県

(2) 販売額又は所得額の10%以上の増加

地域協議 会名	整理番 号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標										地域(県又は国)の 価格(販売単価)				補正係数	価格補正後 の実績	事後評価の検証方法(※定量 的な検証ができること。)	達成率(%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考															
					現状					目標					事業実施 前年度		目標年度																							
					年度	金額	面積	生産量又 は出荷量	価格 (販売単 価)	生産コスト	年度	金額	面積	生産量又 は出荷量	価格 (販売単 価)	生産コスト	年度	金額								面積	生産量又は出荷量	価格 (販売単 価)	生産コスト											
							単位	単位	単位	単位			単位	単位	単位	単位										単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位								
雲仙市農業 再生協議会	11	国見	白ネギ	移植機や収穫機、皮むき機等の機械化一貫体系を導入することにより、余剰となった労働時間により栽培面積を拡大し、総販売額の向上を図る。	総販売額の10%以上の増加	29	375,717千円	40.9	ha	1,044	t	360	円/kg	R3	415,894千円	45.2	ha	1,155	t	360	円/kg	3	337,651千円	40.2	ha	1,005	t	336	円/kg	425	円/kg	400	円/kg	1.063	358,923千円	出荷伝票及び販売実績により検証する。	-41.8	夏季の豪雨等の影響により病害虫が多発し、廃棄分が発生したことで目標達成できなかった。今後は防除管理を徹底し、適期収穫を指導する。	病害虫の影響により出荷量が落ちたため、高品質・安定生産に向け病害虫対策や適期での栽培管理の徹底について関係機関と連携し、実施する必要がある。	
	6	諫早	にんじん	にんじん販売額の増加に向けた選果施設、省力化機械及び生産安定資材の導入等による産地拡大の取組	総販売額の10%以上の増加	28	495,928千円	134	ha	5,715	t	86.8	円/kg	R3	940,276千円	184	ha	9,384	t	100.2	円/kg	3	335,459千円	110	ha	5,665	t	59	円/kg	135	円/kg	72	円/kg	1.875	628,985千円	販売実績による確認(総販売額) H29年度は台風による北海道の不作に伴い、単価が高騰したため、現況はH24~H28における5中3の平均値	29.9	省力化機械の導入により取組全体の経営面積が増加し、さらに能力の高い選果機も整備されたことから栽培面積は増加する予定であった。しかし、8月の播種最盛期に長雨、9月の台風による風害により栽培計画が大きく狂ってしまった。また、9月中旬以降は干ばつとなり、生産者はかん水に尽力されたものの品質の劣化が大きく出荷量が減少した。また、販売面では出荷開始からの安値販売に加え年明けの価格暴落により2月に緊急需給調整対策を実施し、100tを超える出荷調整を行った。今後は、省力化機械や優良品種の導入による生産基盤は確保できているため品質向上や気象変動に対応できる産地作りなどを計画してゆきたい。	台風や豪雨による影響はやむを得ないが、今後産地拡大のための面積増加に向けて、省力化機械や選果施設の活用、適時での栽培管理の徹底について関係機関と連携し支援を行うとともに、中間管理事業の活用による担い手の規模拡大を推進する必要がある。	
諫早市農業 再生協議会	7	諫早市飯 盛	カーネーション・草花	低コスト耐熱性ハウス(H29) 4棟3715.5㎡(H30) 2棟1,680㎡ (R1) APハウス資材1棟9a 環境制御装置 3式、1式 温度制御装置 4式 自動灌水制御装置 2式	販売額の10%以上の増加	27	396,116千円	5.77	ha	6,591	千本	56.9	円/本	R3	448,606千円	6.42	ha	8,585	千本	52.2	円/本	3	452,177千円	6.42	ha	6,770	千本	66.8	円/本	47.3	円/本	53.3	円/本	0.887	401,080千円	販売実績により検証する。 【現状】(H27年度) 396,116千円/5.77ha 【目標】(R3年度) 448,606千円/6.42ha	9.5	秋口の高温による生育障害等により、出荷本数は未達となったが、市場ニーズに対応した品目、品種の選定により、販売金額は増加し、目標は達成した。	継続した高品質生産や消費者ニーズに対応した品種の選定などにより、出荷本数は目標を達成できなかったが、販売金額は目標を達成することができた。今後も、更なる販売金額の向上に向け、生産、販売等について、関係機関と連携していく。	
	9	諫早市有 喜地区	にんじん	販売金額の増加に向けた産地規模の拡大のため、作業労力の省力化を図る機械の導入	総販売額の10%以上の増加	28	53,742,438円	12.5	ha	540.1	t	99.5	円/kg	R3	60,124,008円	14	ha	600	t	100.2	円/kg	3	60,539千円	14.8	ha	678.5	t	89.2	円/kg	135	円/kg	72	円/kg	1.875	113,510,625円	受益者の実績により検証	936.6	夏季長雨等により栽培については厳しい状況であったが、その後の状況回復と栽培面積の増加もあり収穫量は増加した。また価格低下のため販売額は昨年比低下したが目標達成した。	栽培面積が増加し、有利販売にもつながったことから、今後も安定出荷に関する指導や計画的な作付けの推進を関係機関と連携し行っていく必要がある。	

島原市農業再生協議会	2	島原地区	だいこん	洗浄選別機の導入による品質向上と選果能力の向上を図るとともに、市場のニーズに対応した栽培体系を確保するため、トンネル資材及びびたがけ資材を導入する。また、秋冬大根から春大根への移行時期の品質確保及び春大根の後の品質確保のためハウス栽培を導入しハウス栽培による春2作で品質維持を図るとともに、栽培環境整備のため省力化機械をリース導入し、労働力の確保を図る。	総販売額の10%以上の増加 (千円)	27	1,063,839	150.2	ha	15,941	t	66.7	円/kg	33	1,271,630	175.3	ha	18,572	t	68.5	円/kg	3	700,411	133	ha	12,073	t	58.0	円/kg	73.5	円/kg	48	円/kg	1,531	1,072,329	4.1	JA島原富仙農業協同組合(島原地区)の出荷実績を元に検証する。 ※現況(28年度)については、台風の影響で単価が高騰したため3カ年平均とした。 前年度、前々年度と2年間全国的な豊作及びコロナ感染拡大防止に伴う自粛等により廃棄処分が続いたため、播種面積を控えたので目標達成できなかった。 コロナ感染症の影響が収まり、計画的な作付や販売促進を進める。	資材導入や省力化機械リース導入を実施し安定的な出荷や規模拡大等の推進を図ったが、全国的な豊作及びコロナ感染拡大防止に伴う自粛等による単価安や出荷制限のため、目標達成には至らなかった。今後、関係機関と連携し、計画的な作付を検討するとともに、契約販売等、販売面においても工夫した販売活動等支援を行う。
	3	有明、国見、瑞穂地区	だいこん	洗浄選別機の導入による品質向上と選果能力の向上を図るとともに、市場のニーズに対応した栽培体系を確保するため、トンネル資材及びびたがけ資材を導入する。また、秋冬大根から春大根への移行時期の品質確保及び春大根の後の品質確保のためハウス栽培を導入しハウス栽培による春2作で品質維持を図るとともに、栽培環境整備のため省力化機械をリース導入し、労働力の確保を図る。	総販売額の10%以上の増加 (千円)	27	1,153,622	179.4	ha	18,120	t	63.7	円/kg	33	1,424,061	208.2	ha	21,962	t	64.9	円/kg	3	672,162	135	ha	11,535	t	58.2	円/kg	73.5	円/kg	48	円/kg	1,531	1,029,080	-46.1	JA島原富仙農業協同組合(有明、国見、瑞穂地区)の出荷実績を元に検証する。 ※現況(28年度)については、台風の影響で単価が高騰したため3カ年平均とした。 前年度、前々年度と2年間全国的な豊作及びコロナ感染拡大防止に伴う自粛等により廃棄処分が続いたため、播種面積を控えたので目標達成できなかった。 コロナ感染症の影響が収まり、計画的な作付や販売促進を進める。	資材導入や省力化機械リース導入を実施し安定的な出荷や規模拡大等の推進を図ったが、全国的な豊作及びコロナ感染拡大防止に伴う自粛等による単価安や出荷制限のため、目標達成には至らなかった。今後、関係機関と連携し、計画的な作付を検討するとともに、契約販売等、販売面においても工夫した販売活動等支援を行う。
	2	岳辺田地区	大豆	兼用管理機のリース導入により作業の効率化を図り、面積の拡大及び適期作業を行うことで反収の増加に取り組み、産産地の形成を推進。	10a当りの販売額の10%以上の増加	30	8,941円	6.3	ha	135	kg/10a	66	円/kg	R3	9,240円	7.5	ha	140	kg/10a	66	円/kg	3	4,412円/10a	大豆 8.2	ha	101.0	kg/10a	43.3	円/kg	152	円/kg	162	円/kg	0.940	4,146円/10a	-1,603.7	農事組合法人「岳辺田」の大豆販売額から算出する (現状) 【大豆面積】6.3ha【反収】135kg 【実績】563,306円【反売上】8,941円 【WCS面積】1.2ha【反収】4ロール 【実績】0円 ※産産農家へ譲渡 (目標)【大豆面積】7.5ha【反収】140kg 【実績】693,000円 【反売上】9,240円 反売上8,941円/反収135kg=66円 66円×反収140kg=9,240円 9,240円×目標面積7.5ha=693,000円 排水対策等により昨年度と比べると反収の増加となったが、豪雨や晴天が続いたため、播種面積を控えたので目標達成できなかった。 コロナ感染症の影響が収まり、計画的な作付や販売促進を進める。	作付面積の目標は達成できたが、単収が低い状況。単収向上のため、関係機関と連携して排水対策および播種指導を行う必要がある。
波佐見町農業再生協議会	4	稗木場地区	麦	コンバイン・トラクター・麦播種機を複合的にリース導入することで、作業の効率化を図り、面積の拡大及び適期作業を行うことで反収の増加に取り組み、産産地の形成を推進。	10a当たり販売額10%以上の増加	1	11,851円/10a	17.4	ha	371	kg/10a	31	円/kg	3	13,051円/10a	20	ha	421	kg/10a	31	円/kg	3	3,581円/10a	小麦 17.5 大麦 3.3	ha	小麦 489 大麦 741	kg/10a	小麦 7 大麦 6	円/kg	小麦 46 大麦 52	円/kg	小麦 42 大麦 34	円/kg	小麦1.092 大麦1.516	4,206円/10a	-637.1	農事組合法人「ひえこば」の麦販売額から算出する (現状) 【小麦面積】16.32ha【反収】386kg ①163.2a×386kg=62995.2kg 【大麦面積】1.08ha【反収】154kg ②10.8a×154kg=1663.2kg 【合計面積】17.40ha 【平均反収】①+②/17.4a=371kg 【実績】2,082,114円【反売上】11,851円 (目標)【面積】20ha【反収】421kg 【実績】2,610,200円 【反売上】13,051円 反売上11,851円/反収371kg=31円 31円×反収421kg=13,051円 13,051円×目標面積20ha=2,610,200円 収量は増加となったが、刈り取り時期の降雨で品質低下となった。また外食産業の需要低下により販売単価が下がったと考えられる。品質の向上のためにも排水対策、施肥、栽培管理の徹底を行う。	単収、品質の向上のため、排水対策の徹底について関係機関と連携して指導を行う必要がある。
	3	田ノ頭地区	麦	コンバインのリース導入により作業の効率化を図り、面積の拡大及び適期作業を行うことで反収の増加に取り組み、産産地の形成を推進。	10a当たり販売額10%以上の増加	1	12,066円/10a	7.3	ha	302	kg/10a	39	円/kg	3	13,299円/10a	10	ha	341	kg/10a	39	円/kg	3	3,019円/10a	小麦 10	ha	小麦 432	kg/10a	小麦 7	円/kg	小麦 46	円/kg	小麦 42	円/kg	小麦 1.092	3,297円/10a	-711.2	「農事組合法人のかしら」の麦販売額から算出する (現状) 【小麦面積】5.107a【反収】269kg ①51.07a×269kg=13737.83kg 【大麦面積】2.173ha【反収】381kg ②21.73a×381kg=8279.13kg 【合計面積】7.280a【平均反収】325kg 【平均反収】①+②/7.28a=302kg 【実績】866,378円【反売上】12,066円 (目標)【面積】10ha【反収】341kg 【実績】1,329,900円【反売上】13,299円 反売上12,066円/反収302kg=39円 39円×反収341kg=13,299円 13,299円×目標面積10ha=1,329,900円 作付面積、収量は目標達成となり、収量は過去最高となったが、刈り取り時期の降雨で品質低下となった。また外食産業の需要低下により販売単価が下がったと考えられる。品質の向上のためにも排水対策、土壌改良等に取り組み。	収量等目標達成しているが、価格低下により目標は達成できなかった。品質向上は継続的に取り組むため、排水対策の徹底や販売方法についても、関係機関と連携して指導を行う必要がある。

	5	村木地区	大豆	大豆コンバインのリース導入により作業の効率化を図り、面積の拡大及び収穫作業を行うことで反収の増加に取り組み、大豆産地の形成を推進。	10a当たり販売額10%以上の増加	1	16,949円	9.2	ha	127	kg/10a	133	円/kg		3	18,753円/10a	9.5	ha	141	kg/10a	133	円/kg		3	5,115円/10a	11	ha	113	kg/10a	45.3	円/kg	152	円/kg	162	円/kg	0.940	4,807円/10a	「村木畑の原産者組合」の大豆販売額から算出する 【現状】 【実面積】 9.23ha 【反収】 127kg 【実績】 1,564,458円 【反売上】 16,949円 【目標】 【面積】 9.50ha 【反収】 141kg 【実績】 1,895,250円 【反売上】 18,753円 反売上16,949円/反収127kg=133円 133円×反収141kg=18,753円 18,753円×目標面積9.50ha=1,781,535円	-673.1	作付面積は目標達成し、反収については昨年産と比べると増加となったが、豪雨や晴天続き、雑草の発生により小さい粒で品質低下に繋がったと考える。また、小粒傾向であったことから、販売単価が下がったと考えられる。排水対策等を実施しているが、今後の栽培方法について早播きをするなど栽培管理の見直しを行う必要がある。	単収向上に向け、排水対策の徹底による安定生産に向け、関係機関と連携して指導を行う必要がある。
東彼杵地域農業再生協議会	1	東彼杵町	茶	省力化機械のリース導入、被覆資材の導入や防霜施設の整備により、規模拡大を図るとともに品質の向上及び収益増につなげる。また、需要の高い種茶の供給施設を整備し販売額の増加につなげる。	販売額の10%以上の増加	29	741,670千円	393	ha	387	t	1,917	円/kg	R3	839,957千円	393	ha	398	t	2,110	円/kg		3	598,339千円	391	ha	313.7	t	2,300	円/kg	1,226	円/kg	1,014	円/kg	1.20	4,040円/kg	西九州茶連の販売実績や所得税の確定申告書による確認（総販売額）	-24.1	新型コロナウイルスの影響による需要減等の影響のため生産量が減少したものの、種茶の需要増もあり販売単価が増加した。導入した省力化機械、資材、施設を活用し規模拡大、販売単価向上に向け、関係機関と連携し推進する。	導入機械や資材の活用により高品質化が図られ、また需要の高い新たな茶種への取組により販売単価は上昇している。しかし、新型コロナウイルスの影響等により、生産量が減少し、目標達成には至っていない。目標達成に向け、関係機関と連携し、規模拡大、栽培管理の徹底を指導し更なる高品質化、単価向上を図る必要がある。	
香岐地域担い手育成総合支援協議会	3	香岐市	ミニトマト	販売金額の増加に向けた産地規模の拡大や生産性の向上に繋がる資材等の導入による生産拡大の取組み。	10a当り販売額の10%以上の増加	29	2,168千円/10a	1.2	ha	36,245	kg	738	円/kg	R3	2,398/10a	1.3	ha	42,900	kg	727	円/kg		3	1,800千円/10a	0.63	ha	16,835	kg	671	円/kg	593	円/kg	540	円/kg	1.098	1,976千円/10a	販売実績による検証 10a当りの販売額の10%以上の増加 【現状(1929年度)】 2,168千円/10a 【目標(1929年度)】 2,398千円/10a 【実績(1929年度)】 1,307千円/10a	-83.5	課題であった10月以降の樹勢維持については、追肥で対応し生育後半も樹勢維持できたが、青枯病による被害が多く見受けられた。今後も、JA主催の講習会等で情報共有を行うとともに導入資材を有効活用し、目標に到達するよう関係機関が連携し、指導を行う。	高温時の栽培管理および病害対策を徹底し、生産量の増加および品質向上、安定生産に向け、導入資材の効果的な活用に向けた指導を関係機関が連携し、実施する必要がある。	
	6	香岐市	にんにく	①定植、収穫作業の省力化のために機械を導入し、通期に効率的な定植・収穫作業を取り組む。	10a当り販売額の10%以上の増加	30	282千円/10a	1.0	ha	4,300	kg	655	円/kg	R3	313千円/10a	1.2	ha	5,676	kg	662	円/kg		3	187千円/10a	1.97	ha	5,326	kg	693	円/kg							出荷伝票及び販売実績による検証 【作付面積】 1.68ha 【販売額】 2,341,392円	-306.5	生育は順調に進んだが、高温過湿で推移したため病害虫が発生した。厳寒期の低温過湿とまとまった降雨により不結球（坊主玉）は少なかったものの二次生長が多かったり、例年より早い播種入りで収穫が遅れた園場では、割れ球が多く出荷量は減少した。今年度は、製品率向上に向けて、関係機関と連携し、指導を行う。	生産面積は目標を達成していることから、安定した出荷量、品質維持のため、病害虫対策の徹底や効率的な機械利用による播種作業、低コスト化について関係機関が連携し指導する必要がある。	契約栽培

(3) 契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上とすること

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標												事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)	達成率(%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考												
					現状			目標			実績			実績																			
年度	年度	単位	単位	単位	年度	単位	単位	単位	年度	単位	単位	単位	年度	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位											
雲仙市農業再生協議会	13	吾妻・愛野・千々石	ばれいしょたまねぎ	①選果施設の整備による効率的な集出荷体制の確立	契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上	30	14.6%	189.7	ha	6,272.4	t	980.6	t	R3	53.90%	189.7	ha	6,755.5	t	3,642	t	3	55.9%	143	ha	4,484	t	2,507	t	出荷伝票及び販売実績により検証する。	105.1	計画的な作付け、出荷が可能となったことで契約出荷が図られ、契約量は増加しているが、面積の拡大等によりさらなる出荷量の増加を図る必要があるため、省力化技術の推進や中間管理事業を活用した面積の拡大等について関係機関と連携し、推進する必要がある。	

